



埋文だより

第79号

令和元年 6月28日発行

先人たちの土地選び

下原遺跡 (志布志市)

調査区1

調査区3

調査区2



集石



道路状遺構



縄文時代早期土器

下原遺跡は、有明志布志道路の建設に伴って発掘調査が行われ、このほど調査報告書が刊行されました。調査は2つの谷を挟み、3か所（調査区1～3）の台地に分かれて実施され、旧石器時代から近代に至るまで、幅の広い時代・時期の遺構・遺物が確認されました。縄文時代早期や後・晩期、弥生時代中期の遺構・遺物はいずれも3地区で、また旧石器時代は調査区1、縄文時代前期は調査区1と3のみで確認されるなど、それぞれの台地で特徴が見られました。先人たちがどのような土地利用を行っていたか考える上で貴重な情報となりました。

目次

- ・先人たちの土地選び…………… 1
- ・報告書速報！…………… 2・3
- ・面縄貝塚出土品ほか…………… 4
- ・普及・啓発活動ほか…………… 5
- ・令和元年度 発掘調査予定遺跡…………… 6

報告書！ 速報

昨年度、報告書が刊行されている、
県立埋蔵文化財センターと（公財）
埋蔵文化財調査センターの整理報告
の成果の一部を紹介します。

…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
…（公財）鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センターの発掘調査

よみがえる校内の歴史

～本御内遺跡(霧島市)～



板碑の出土状況

国分高等学校の校舎改築に伴って発掘調査され、
中世の武家屋敷を囲む溝の中から、土器や陶磁器な
どの遺物とともに、板碑が出土しました。同じ霧島市の大隅正八幡
宮（鹿児島神宮）の仕事を代々受け継ぐ四社家の1つである沢家の
墓地には、49基の板碑が残っています。今回出土した板碑は、横幅は異なりますが、石材・形状・梵字
などが極めて沢家墓地のものと近く、何かの関連があるものと想定されます。

※板碑とは、主に供養塔として使われる石碑の一種で、中世に増加し、戦国期以降になると急激に廃
れていきます。

脚光再び！「河口コレクション」

～山ノ口遺跡(錦江町)ほか～



山ノ口遺跡出土品（県指定有形文化財）

「河口コレクション」を再整理した報告書として、平成
30年3月には「山ノ口遺跡」、平成31年3月には「吐噶喇・
奄美の遺跡」を刊行しました。報告書ではこれまで未報告の土器や石器
などの資料を中心に図化・写真撮影し、遺跡や遺物の学術的な再評価を
行っています。

河口貞徳先生は、昭和20年代から鹿児島県内の遺跡の発掘調査や研
究を精力的に行い、考古学の発展に寄与してこられた全国的にも著名な
考古学者です。先生の逝去にともない、寄贈された遺物や資料を平成
24年度から整理作業及び周知・活用する事業を行っています。

川沿いに形成された往来の土地

～川久保遺跡C地点(鹿屋市)～



川久保遺跡C地点は、旧石器時代から近世にかけての遺跡です。平成27年度～平成29
年度に発掘調査を行い、平成30年度に報告書を刊行しました。旧石器時代は、ナイフ形器
文化期の三稜尖頭器や石錐などの石器が出土しています。縄文時代は、早期の堅穴住居跡のほか、後・
晩期の土器や石器が出土しました。

また、古墳時代は、堅穴住居跡から貯
蔵具である壺形土器が頸部を打ち欠き、
煮沸具に転用されたと考えられる状態で
出土し、注目されています。また、古代
～近世の多数の溝状遺構や道跡などが発
見されており、串良川沿いの河岸段丘面
が人々の往来に利用されていたことがう
かがわれます。



溝状遺構の検出状況



縄文時代早期の土器

2つのセンターが調査!?

～見帰遺跡(志布志市)～



落とし穴の調査

見帰遺跡は、東九州自動車道と高規格道路が交差
する志布志IC付近にあります。東九州自動車道部
分を（公財）埋蔵文化財調査センターが平成28年度に発掘調査し、
平成30年度に調査報告書を刊行
しました。



時代不明の溝状遺構

発掘調査では、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期の落とし
穴などの遺構や土器・石器などの遺物と時代不明の溝状遺構が出土
しています。

今後刊行される県立埋蔵文化財センターが調査した高規格道路部
分の報告や、周辺にある遺跡の内容をとおして、見帰遺跡周辺の歴史
が解明できることが期待されます。

川内川下流域の生活

～高野木遺跡(薩摩川内市)～



高野木遺跡では、近世の薩摩焼や瓦質土器・陶磁器を伴う土坑と中世（約500年前）
の島（畑）跡が発見されました。薩摩焼には、犬の形を模したものも含まれていました。
島跡は、畝と畝の間が浅く砂層であるため耕作痕などは確認ができませんでした。そこで、その土壌
を分析したところ、畑でイネを
育てていた（陸稲栽培）の可能
性があることがわかりました。



薩摩焼(犬)



島(畑)の跡

古代から近世の遺物も出土し
ており、川内川下流域の土地利
用と生業を考えるうえで貴重な
遺跡となりました。

縄文時代の集石（発掘現場より）

～石鉢谷A遺跡(鹿屋市)～



石鉢谷A遺跡は、北側に高隈山系が広がり鹿児島湾に緩やかに下っていく斜面に立地
する遺跡です。平成30年度に発掘調査を行い、アカホヤ火山灰層（約7,300年前）下の縄文時代早期
の遺構・遺物と、約1,500年前の古墳時代の遺物が見つかっています。

縄文時代早期の層から見つかった
集石は、石蒸し料理を行った遺構と
考えられています。約10～30cmの
比較的大きい礫を組み合わせて作ら
れたもので、ここで生活した人々の
調理の様子がうかがわれます。



集石



発掘調査風景

おもなわかいづか 県文化財に新指定! 面縄貝塚出土品

面縄貝塚は、徳之島の南端に位置し、奄美・沖縄地域の縄文時代における遺跡の立地や構造を示す集落遺跡で、九州と沖縄地域の関係性の解明にとって古くから調査・研究の対象となってきた遺跡です。

その多彩な出土品は、約7,000年前から約1,400年前に至る生活の変遷を示す資料として大変貴重な資料であることから、この4月に鹿児島県の有形文化財（考古資料）に指定されました。

指定された面縄貝塚出土品は、縄文時代を中心とする土器、石器、骨製品、貝製品など130点です。



面縄貝塚出土品

第54回企画展 「バックナンバー 古の美術品Ⅱ」 【企画展講演会】～新聞で見た考古資料～

期日 6月1日(土)
場所 上野原縄文の森 展示館多目的ルーム



企画展講演会の様子

上野原縄文の森では、7月7日(日)まで、第54回企画展「バックナンバー古の美術品Ⅱ」を開催しています。南日本新聞に3年以上に渡って連載している「古の美術品」を一堂に集めたものです。

前回の企画展「バックナンバー古の美術品」で紹介しきれなかった貴重な遺物を公開しています。

6月1日(土)には、図録の執筆者である南種子町立荃南小学校の大久保浩二校長が講演を行いました。講演会には、多くの方々が訪れ、展示品の発掘当時の様子や新聞掲載への経緯、また種子島で有名になった三角山遺跡の解説に、埋蔵文化財の新たな魅力を感じておられたようです。県内遺跡を知る上で、ひとつの情報源になっていますので、企画展の見学に是非おいでください。

ちょっと考古学

遺跡の見学に行ってみよう!

埋蔵文化財センターでは、地域の埋蔵文化財を通して、歴史や文化に触れ、郷土に親しんでいただくため、毎年、遺跡の現地説明会を行っています。今回は、地域の発掘現場(6頁参照)に気軽に来ていただいて、どのように楽しむのか紹介します。



- ①地層や生活の跡を見ることができます。
 - ②土器や石器に触れることができます。
 - ③発掘体験ができます。
 - ④夏休みの自由研究の材料になります。
- ※詳細は、県立埋蔵文化財センターまでお問い合わせ下さい。

普及・啓発活動

本物に学ぼう! 歴史を学ぼう!

「西南戦争を掘り、学ぶ」事業

平成30年度は、明治維新150周年を迎え、テレビドラマでは西郷隆盛が取り上げられるなど、鹿児島県が大変注目されました。その西郷隆盛が関係する「西南戦争」や「近代化産業遺産」の魅力を発信し、より鹿児島の歴史や郷土愛を深めてもらおうと「西南戦争を掘り、学ぶ」事業を展開しています。まず今年度は「掘る」事業として、高熊山激戦地跡(伊佐市)と笠取戦跡(霧島市)の2か所を調査します。また、「学ぶ」事業では、西南戦争関連の授業支援を学校や現地で行います。

昨年同様、県内各地に赴いて児童生徒の皆さんに本物の遺物を見てさわっていただき、鹿児島の歴史を肌で感じてもらう機会としたいと考えています。



高熊山激戦地跡で高校生の見学

中学生職場体験学習

5月22日(水)～5月24日(金)までの3日間、中学生5人の職場体験学習を実施しました。土器洗いや拓本、分析、情報処理や図書館業務まで幅広く実習しました。整理作業の業務を中心に体験することで、報告書作成までの様々な工程に関わり、職場で働く多くの人々との触れ合いもありました。3日間の感想に、「専門的な技術が必要だとわかった」「歴史は深いと感じた」「挨拶の大切さを感じた」と話す姿が印象的でした。埋蔵文化財センターでは、発掘調査報告書作成だけでなく、その調査成果を県民の皆さんにお伝えし、埋蔵文化財の大切さを知っていただくために、下記のような取り組みも実施しています。お気軽にお問い合わせください。詳細は、ホームページをご覧ください。(下記のQRコードを読み込むとそれぞれのページをご覧ください。6頁も参照してください。)



まいぶんキット貸出事業



埋文職員の授業支援



教員、埋文専門職員養成講座



見学してみない?
発掘現場

令和元年度 発掘調査予定遺跡

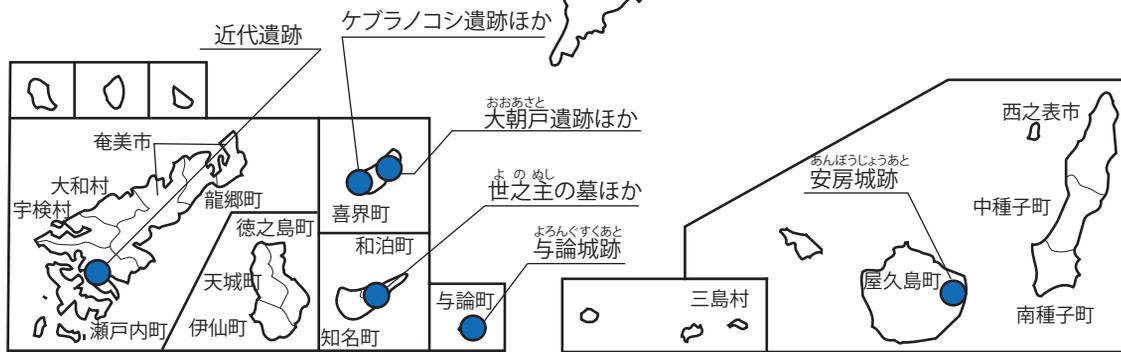


埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが行う発掘
 - (公財)埋蔵文化財調査センターが行う発掘
 - 市町村教育委員会が行う発掘調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡
- ※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



発掘調査のようす
(原村遺跡・平成30年度)



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県 (<http://www.pref.kagoshima.jp/>) または、上野原縄文の森 (<https://www.jomon-no-mori.jp/>), QRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索



埋文だより 第79号

発行日 令和元年6月28日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp